

SIC 会員企業の委員の皆様、

「ケースによるシステム構築講習会」のためのケースとなるシステムご提供のお願い

2021年12月2日(金)

ご存知のように SIC 人財育成協議会はケーススタディを通して実システム構築のための能力を獲得させる教育を行っております。システム構築には、座学によるシステム科学技術の学習と並んで、システム構築に絡むさまざまな現実の課題を明らかにし、それを環境に即して総合的に解決していく能力が求められます。この能力を獲得するには、何よりも実システム構築の場に身を置き、そこでの経験を追体験し血肉化していくことが必要です。その機会を与える境域の場を提供することはさまざまな点で困難があります。何よりもそのために使うことのできるシステム構築のケースは、机上で考えられたケースではなく現実動いているシステムであることが要求されます。そのようなシステムを提供して頂くことは情報公開の面で難しいという現状があります。また、システム構築にはそれに用いる技術だけでなく、システムが実際に動いている環境にかかわる様々の具体的な情報、すなわちドメイン知識が必要で、それを短時間で受講生に獲得させるのは困難な面があります。

以上の困難を認識しつつ、SIC 人財育成協議会ではこのケーススタディ講習会を追求しております。これがなければシステム構築の教育は完全なものにならないと考えております。すでに行った二回のケーススタディ講習会では、JR 東日本と日立製作所の支援を得て東京圏の列車運行システム ATOS をケースとして講習会を行い、好評を得ました。そのあとにはマツダの「スカイアクティブエンジン」をケースとして行うことが確定しておりますが、それ以降はまだ決まっておりません。

これまでの 2 回の講習会を通じて感じたことは、この講習会是一回の講習に参加しただけでは教育の実を上げることは難しいということです。いくつかの異なるケースでのシステム構築の経験を経てはじめて、多様なシステム構築に対応する能力を獲得することできると思われまます。そのためにはいくつかのケースをパッケージとしたケース講習会を提供することが必要ではないかと考えております。それには最低 5～6 のケースを用意する必要があります。

SIC の戦略委員会で議論したところ、会員企業に提供を呼びかけたらどうか、ということになりました。そこで各会員さまにぜひ次のようなシステムをご提供いただくことをお願いいたします。

(1) システムの規模は問わない。小さなものでもよい。

(2) 現在実際に動いているシステムが望ましい。

(3) システムを構築した背景や過程を明示できる。

機密保持には最大限配慮し、社外に公表可能な内容に限定してケースを作成します。ケース提供に関しての必要な経費は SIC が負担します。講習会には、ケースを提供して頂いた企業にはご参加いただき、関連する講演や受講生への助言などをお願いできたらと考えています。

ご提供いただけるシステムは人財育成協議会のケーススタディ教育タスクフォースの赤津リーダに事務局を通してお申し出ください。

日本でいま最も必要とされているシステム化人材育成へのご協力を切にお願いする次第です。

システムイノベーションセンター	齊藤 裕 (センター長)
	木村 英紀 (副センター長)
	赤津 雅晴 (ケーススタディ講習主査)